

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |                      |            |             |
|---------|----------------------|------------|-------------|
| 事業所番号   | 2297201242           |            |             |
| 法人名     | 株式会社エイルプラス           |            |             |
| 事業所名    | グループホーム明日香 ユニット名 すみれ |            |             |
| 所在地     | 静岡県浜松市浜北区横須賀63-5     |            |             |
| 自己評価作成日 | 令和5年 5月 20日          | 評価結果市町村受理日 | 令和5年 7月 18日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人静岡県介護福祉士会               |
| 所在地   | 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階 |
| 訪問調査日 | 令和5年 6月 13日                   |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

お互い様の心を理念のもと事業者が頑張っている所は、自立支援で利用者の発言や行動などしっかりと見極め、出来る事・出来ない事を把握して出来る限り残存機能の維持をし、職員が一方的な介護にならないように、頼り合える関係性を作る事や、コロナ禍の為、外出が出来ない分、毎月の行事やフロア内の季節の飾り物を一緒に作り上げる事で、季節を感じながら日々の暮らしの中に楽しみを見出せるように支援している。また日当たりの良い庭を活用し、庭内の散策・花壇の手入れ・運動・おやつや食事をするなど日光に当たりながらの活動は健康的な身体作りにもなり、気分転換にもなる為、メリハリのある生活が送れるように支援している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

昨年度法人が変更したが、施設内容は大きく変わってはいない。新しい法人との関係も良好で、いろいろな面ですぐに対応してもらえる等、日々の運営もスムーズである。今までの法人理念「敬意と優しさをもって接します」や「明るい挨拶と丁寧な言葉遣いを心がけます」など8つの行動指針を新しく作り、職員全員で行動するように心がけている。今までコロナ禍でなかなか出来なかった面会もマスク着用や外食以外は以前のような対応としている。初めて広い芝生のある庭と一軒家を使い認知症カフェを行った。初めてであったために近隣の方の参加はなかったが、続けていきたいと管理者は考えている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|---|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | ○ 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | ○ 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている<br>(参考項目:30,31)         | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらい<br>3. 利用者の1/3くらい<br>4. ほとんどいない    |    |   |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|--------------------|-----|---|---|--|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |   |  |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 事務所に理念である「お互い様の心」を飾る事で、職員一同が共有する事ができ、毎日意識づけて実践に繋げている  | 昨年度法人が変更になったが、理念である「お互い様の心」はそのままに、行動指針の変更を大幅に行い職員の意識付けの向上を図っている。「相手の気持ち、考え、立場を尊重します」「日々勉強し、改善することを怠りません」など8項目を決めた。 |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している                            | コロナ禍の為、利用者が地域の自治会に参加する事は出来なかったが、職員は地域の清掃や小学校の資源回収にも日常的に利用させて頂き、コロナ5類に引き下げられてからは、利用者と共に回覧板を届に行ったり、近所の子供に話し掛けるなど地域との繋がりを大切にしている | コロナ禍で地域の活動には参加できていなかったが、隣接する学校の資源回収ボックスに回収品を持ち込んだり、公民館の掃除には職員だけではあるが参加している。  |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | コロナ禍の為、運営推進会議の開催が出来ず書面でのやり取りを行っていた。またコロナ前は敬老会に地域の方を招くことで、認知症の方の理解をして頂いていた。そして今年の6月には地域の方に認知症を身近に考えて頂ける機会を作る為に認知症カフェを開催致します。   |  |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | コロナ禍の為、運営推進会議は開催する事が出来ず、アンケートや近状報告を書面でのやり取りで行っていた。そしてアンケートの返信をサービスの提供に活かしていた。   | 今までは書面開催ではあったが、意見の収集や報告は毎回行われている。外部評価のない年には利用者様ご家族へのアンケートを取り、意見には返信を行ったり、職員の意識や施設改善に繋げている。                         |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                 | 運営推進会議の書類を送る事で、アンケートの返信を頂いたり、電話での相談を行っていた。  | 運営推進会議が書面開催であることから、なかなか直接会っての協力関係は少ないが、会議の返事や電話での相談などは行っている。コロナ発生時の加算の相談や困っている家族の相談ごとを関係部署に繋げるようにしている。             |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止の担当者が中心になり、全員で毎月勉強会を行ない身体拘束をしないケアに取り組んでいる。  | 毎月の職員会議において、気になるフレーズを出して話し合いを行ったり、利用者一人ひとりにあった支援の方法などを話し合っている。職員一人ひとりが気をつけるポイントを話し合うようにしている。                       |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 身体拘束廃止の担当者を中心になり虐待についての勉強会を行なう事で、理解を深め見過ごされないように虐待防止に努めている。   |  |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 年に1回は成年後見制度の資料を職員が作成し、勉強会を行なう事で全職員が理解し活用出来るように取り組んでいる。   |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 施設長が契約・解約の対応は行ない、質疑応答を十分に行なう事で理解・納得を得られている。  |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進会議のアンケートで出た意見や要望は、リーダー会議や職員会議で話し合いをし運営に反映させている。また日頃から利用者やご家族とコミュニケーションをとる事で、面会時や電話でも意見や要望を聞きやすい関係性作りが出来ている為、個別ケアに繋がっている。 | 家族と職員がコミュニケーションの取りやすい関係性を作るように努めている。運営推進会議での質問や要望書に書かれた内容を職員会議や不定期ではあるが管理者とユニットリーダー会議において、話し合いを行っている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 社長との面談で意見を話す機会は設けて下さり、検討してくれている。また施設長やリーダーには普段から気軽に意見を話せる関係性が出来ている為、すぐにできる事は実行し、難しい事はリーダー会議で話し合い、決定した事は職員会議で報告し実行出来るようにしている。 | 個人面談は、半年に1回社長と定期的に行っている。職員会議の時には、社長も出席しており要望などはすぐに対応が可能である。法人が変更されてから社長がよく寄ってくれることから、話しやすい環境となっている。   |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 年に1回、社長と職員の面談を行っており、就業環境の把握をして頂き、意見や要望など打ち上げる機会を設けてもらっている。   |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 各職員に必要な外部研修や施設内でも職員一人一人に合わせた働き方が出来るように提案してくれている。   |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍の為、職員は同業者との交流は出来なかったが、同業の代表者が集まり情報交換を行なった内容を、職員に伝えてサービスの質を向上出来るように取り組んだ。コロナ5類明けからは、同業者とのキャリアパスも開催されている。                  |   |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |  |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご家族より情報を頂いている為、それを元に介護計画を作成し、職員で共有し日頃の関わりを活かせる様、コミュニケーションを十分にとり、利用者に寄り添う事で安心に繋がられるようにしている。                               |  |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | ご家族とは普段から気軽にコミュニケーションをとる事で、要望などを話しやすい環境を作っている。できる限り思いに応えられるようアイデアを伝えて実践状況を伝えるようにしている。  |  |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 訪問歯科・訪問美容・オムツの発注など事前に必要な支援を聞き、職員で共有する事で速やかに対応出来るよう、コミュニケーションを取っている。  |  |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 「お互い様の心」の理念をもとに、利用者の発言や行動などしっかりと見極め、利用者の事をよく知る事で職員が一方的な介護にならないようにし、頼り合える関係を築けるようにしている。                                       |  |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | コロナ禍の為、直接的な面会は出来ないが、窓越しでの面会で顔を見て話せたり、利用者の変化や問題点が発生した時は、その都度ご家族に報告し常に情報は共有できる状態に努めている。コロナ5類明けからは室内での面会や外出も出来るようになりご家族も喜ばれている。 |  |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 本人や家族からの情報を得て、馴染みの人や場所の名前を折に触れ出す事で、途切れないよう支援に努めている。  | コロナ禍のため、面会は玄関先で距離を取ったり、窓越しでの面会をし関係性が途切れないよう工夫している。用事がなくても家族に電話を入れ、利用者の様子を伝えている。5類になってから外食時以外は、以前と同じ面会となっている。 |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 使用者一人一人の性格や特長などを把握し利用者同士が関われるように間に入り会話を繋げている。  |  |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | サービス利用が終了しても、施設への支援を下さるご家族もあり、良い関係性を保っている。また利用終了から数年経っていても、身近な方に良い施設だと進めてくれたご家族もあり、見学に来てくださり、相談にのる事もできた。 |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日常生活の中で本人が今後どんな事がしたいのか、どんな生活を送って行きたいのかを普段の会話から探っていき、本人の思いを職員間で情報共有を行ない把握に努めている。                          | センター方式を使って、利用者の情報をまとめ半年ごとに見直しを行っている。管理者が常にフリーの立場にいることから、一人ひとりと深く話をする時間が取れている。聞き取った内容は常に職員間で共有するように務めている。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居時にご家族より情報をいただく事で、職員間で共有して把握が出来、また本人や面会時にご家族に聞いた新しい情報も随時追加し、いつでも確認出来るようにしている。                           |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 毎日一人一人の様子を記録に残し、普段の様子と違う事は色を付けて判断出来るようにする事で、職員間で共有して把握出来るようにしている。  |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人・家族・職員の意見はカンファレンスで話し合い現状にあったプランを作成している。また追加で意見やアイデアも随時、介護計画に取り入れられたり、現状と合っていない場合は立て直すなど柔軟な対応が出来ている。    | 利用者や家族からの話は、担当者へ伝え、他職員には日誌を記入し共有している。日誌などから介護支援専門員と管理者がプランの作成を行い、全職員と家族に報告確認を行っている。                      |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | ケアプランに基づき記録を記入し、プラン以外の特記も積極的に記入している。毎日の申し送りで職員間では共有する事ができ、その時にあった対応を考え実行していくことで、プランの立て直しに活かしている。         |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人や家族の要望に合わせて個別に運動を取り入れる事や、外部受診での車の乗り降りの手伝い、個人の買い物など柔軟な支援が出来ている。   |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |   |
|----|------|---|--|--|---|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容   |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | コロナが流行り始めてからは、外出支援が出来なかったが5類に引き下げられてからは、近隣のスーパーに買い物に行ったり、近所の神社にお参りするなどつい息の資源を活用して支援を行っている。                 |  |   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 入居時にご家族と話し合い今まで通りかかりつけ医を利用するか、提携しているクリニックを利用するか尋ね、本人や家族の意向を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。                         | 月2回の往診がある。内科は協力医療の先生に変更されているが、他科受診の場合は、今までの医院に受診している。看護師は毎日協力医院から来訪し、利用者の体調管理は安心できる体制が取れている。                     |   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | ケガや転倒、皮膚の変化があった時には看護師へ連絡しどのような処置をした方がいいのか聞き、対応して頂いている。また必要に応じて受診を行ない適切な看護を受ける事が出来ている。                      |  |   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | コロナで面会が出来ない為、書面や電話対応で病院や家族と情報交換をし共有出来るようにしていた。協力医療機関に働きかけ必要な医療を受けられるように努めた。                                |  |   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 終末期に必要なとする医療行為についての希望や意志表示事前要望書の説明をし、対象入居者の状態を聞き相談を受ける。リスクの説明も行ない方針を共有し、支援に取り組んでいる。                        | 施設での看取りは行われており、ここ一年の間に1名の看取りを行っている。看取りについては、入居時に話し合いを行い、同意書をもろうようにしているが、看取り期になった時の同意書は作成途中である。                   |   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 年1回勉強会で応急手当・急変対応の周知を行っている。また、その都度、事故が起きた時の対応の振り返りを行っている。   |  |   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 各災害のマニュアルを職員に目を通して頂き、意見を出して頂いている。そして年に2回避難訓練を行い実際に動く事で身につけられるよう努めている。近隣の家に明日香の避難図を配り、説明して協力体制が出来るように促している。 | 2階建ての建物であることから、災害が起きた時には上階非難ができるように訓練を行っている。建物倒壊などで建物が使えない場合は、隣の小学校への避難ができるようになっている。避難袋や個々の細かな避難方法などはまだ作成できていない。 | 食料の備蓄や個々の情報の持ち出し用は準備できているが、個々の薬やおむつなど一人ひとりに必要なものの持ち出し袋や誰がどのように持っていかの情報などは未定である。早急に準備することを期待したい。 |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 言葉かけは敬意をはらい、敬語を使うよう意識している。その方がどう過ごしてきたのか職員は共有し、失礼のない声掛けをしている。また、年間通し見直す機会を作っている。  | 家族からの情報を基に、今まで呼ばれていた呼び方で呼ぶように心がけている。方言の強い方には、職員も同じ方言を使い郷土色で話ができるようにしている。言葉かけには十分に注意を払うよう配慮している。           |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 出来るだけ、洋服等選択できる機会を作り、難しい方は2択にするなど選べる工夫をしている。また入浴等も本人と相談しながら入る日や時間を決めている。   |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 本人と相談しながら運動・休息・嗜好品・排泄感覚など本人のペースに合わせて行ない、職員都合にならないようにサポートしている。   |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 昔から化粧をしていた方には継続して出来るようにサポートしている。入浴後フェイスパックを楽しむ方もいる。また服の着方がおかしい方や季節感が合わない方は、さりげなく着替えの手伝いをしている。                                       |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 味噌汁作り・おかずの盛り付け・利用者のリクエストに答えたメニューを考え、職員と一緒に食事作りを行なう事で食事を楽しんで頂いている。また個々の力に合わせて食器洗い・拭きと役割分担をし、できない利用者の食器は「やらせて下さい」と片付けを行なって下さっている方もいる。 | 食事は配達専門のキッチンをお願いをしている。盛り付けや味噌汁作りなどは職員と利用者が一緒に行っている。イベント食や年末年始などの食事を1回は施設で手作りしている。おはぎ作りの際は家族が材料を持参してくれている。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 食欲のない方には、栄養補助食品や嗜好品を代用する事で栄養摂取出来ている。また毎月体重測定を行いそれを基に、食事量も調整している。水分量の確保ができるように、おかわりを促したり、決められた時間以外でも、本人の好む飲み物を出すなどして工夫している。          |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後に歯磨きを促し、磨き残しのある方には職員が手伝い清潔保持に努めている。また個々に合わせてマウスウォッシュや歯間ブラシを使用し、入れ歯の方は職員が預かり定期的に洗浄液につける事で口腔内の清潔保持が出来ている。                          |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄チェックシートを活用し、個々に合わせた時間でトイレに行けるように声掛けをしている。また腹圧をかけて出し切れるようお手伝いすることで、失敗を減らせるようにしている。日々の状況を把握する事で、オムツ・リハパン・布パンツ・パットの大きさ等の調整が出来きている。 | 24時間シートを使って利用者個々の排泄パターンを把握して誘導などを行っている。寝たきりの方以外は布パンツと紙パンツを使用している。水分補給は現状1ℓを目標にしているが、もう少し増やすことを想定している。                 |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 便秘にならないように水分を多めに摂取していたり、体操・運動・お腹のマッサージなどを行なう事で腸を動かし自然排便を促している。  |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 週2～3回は入浴できるよう、個々の都合のいい時間を相談して入浴の計画を立てている。気分が乗らない方へは時間を空けて再度声掛けをしたり、男性職員の介助拒否がある方は女性職員が行ない気持ちよく入浴できるように努めている。入浴剤等も使い楽しめる様にしている。    | 朝から夕方まで一日ゆっくり入れる体制を整えている。週に3回を目標に入浴のお誘いをしている。同性介助を心がけ利用者との関係性作りにも取り組んでいる。入居時に入浴拒否されていた方も関係性の構築に努めている。                 |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 昼夜逆転しないように、昼間は運動量を促し日光に当たる時間を作り、自室で眠れない時はフロアで休息出来るように支援している。また室温調整・掛物調整も行なう事で心地よく眠れる様に環境へも気を配り支援している。                             |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 医師や看護師の指示のもと、処方箋を確認し薬の変更があった時には、介護記録や連絡ノートに記入することで職員の周知に努めている。また、必要に応じて医師や看護師にも相談をおこなっている。  |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 個々やご家族様との会話からその人に合った支援をプランに取り入れ継続的に支援をする事で、活き活きとした生活が送れるように努めている。   |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍の為、外出は出来なかったがその分天気の良い日には庭やベランダで日光浴を行っていた。5類に変わってからは、入居者様の要望に答えて、季節の花(桜・菜の花・藤の花・バラ等)を見に外出支援も行ない気分転換出来ている。                      | コロナ禍で外への散歩はあまりできていないが、施設内の庭に広い芝生の場所があり、天気の良い日には散歩や日光浴を行っている。時々ではあるが施設回りや学校周辺へ散歩に出掛けている。今後は足を延ばしての外出も多く取り入れて行こうと考えている。 |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | コロナ禍で外出できなかった為、自分で支払いをする機会がなかった。その為、職員が買い物代行しご本人の望む物を買う事で要望を叶えていた。5類に変わってからは一緒に買い物にも行く事が出来ている。                                      |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | ご家族様からの電話があった時には、双方の希望を聞き取り次げるようにしていた。聞こえづらいう、言わずらい方には職員が間に入る事で、双方の思いを代弁して伝えている。また毎年、年賀状をご本人に書いて頂き、ご家族に送っている。                       |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 定期的にソファや席の配置換えを見直す事で居心地よく過ごせるように工夫し、カーテンや窓の開閉をする事で光の調節をしたり、換気を細目に行ない自然の空気を取り込めるようにしている。また季節に合わせて入居者様と壁飾りを作ったり、写真を掲載する事で楽しめるようにしている。 | 1時間に1回は窓を開け換気を行っている。季節感のあるものを職員と利用者が一緒に作成し、居間の空間には今はアジサイの飾りが色々な形で壁に装飾されている。テーブルの配置も利用者の状況を見ながら、随時変更ができるようにしている。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 利用者様の性格や相性に配慮して心地よく過ごせる様に席を誘導しているが、共同空間で一人になるのは難しいので、一定の距離が保てるように支援している。また、廊下の日当たりの良い場所にソファを置く事で、思い思いに一人に慣れる場所も作っている。               |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 入居時に、できるだけ使い慣れている物を用意して頂いている。ご家族が持って来られた写真やプレゼントもその都度、居室に飾っている。利用者の現状に合わせてベットや家具の配置換えや撤去・購入等、本人や家族と相談し安全に居心地よく過ごせるように工夫している。        | エアコン以外は、今まで使用していた馴染みの物を持参してもらおうようにしている。居室には家族写真を飾っている方が多いが、誕生日用の色紙や花を飾っている方もいる。                                 |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 居室・トイレ・風呂等に文字や写真で場所が分かる様に表示する事で迷わないように工夫している。また昔からの習慣が継続して出来るように、現状の能力に合わせて役割分担をし、必要な道具を使い分ける事で、自信を持って本人の力が安全に発揮出来るように支援している。       |   |                   |

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                       |            |          |
|---------|-----------------------|------------|----------|
| 事業所番号   | 2297201242            |            |          |
| 法人名     | 株式会社エイルプラス            |            |          |
| 事業所名    | グループホーム明日香 ユニット名 ひまわり |            |          |
| 所在地     | 静岡県浜松市浜北区横須賀63-5      |            |          |
| 自己評価作成日 | 令和5年 5月 25日           | 評価結果市町村受理日 | 令和5年 月 日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a> |
|----------|---|

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                               |
|-------|-------------------------------|
| 評価機関名 | 一般社団法人静岡県介護福祉士会               |
| 所在地   | 静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階 |
| 訪問調査日 | 令和5年 月 日                      |

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

『お互い様の心』と行動指針のもと職員は一方的な介護をするのではなくその人の出来る事出来ない事、興味があることなど引き出しその人らしく生き活きとした生活が送れるよう支援している。また、今までの生活歴やADLに合わせた家族からの要望や関わりの中で気づいた事を職員同士で情報を共有し介護に活かしている。  
季節の行事や飾りで季節を感じていただきながら、日々の暮らしの中の楽しみに繋げている。コロナ禍で外出や面会が思うように出来ない中、、庭に花を植えたりして外を楽しめるよう対応している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印                                | 項目 | 取り組みの成果<br>↓該当するものに○印   |
|----|--|----|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)     | 66 | 職員は、生き活きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている<br>(参考項目:30,31)         | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) |    |   |

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|--------------------|-----|---|--|------|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |      |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 「お互い様の心」と明日香の行動指針を職員一同が共有し利用者様が、その人らしく生活できるように支援している                                       |      |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | コロナ禍の為、外部との関わりをほとんどしなかったが、以前は毎年地域の行事や、敬老会、回覧板、などの機会で交流に繋げている。感染対策をしながら地域の側溝掃除などには職員が参加している |      |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 通常は運営推進会議などの場で直接交流をしながら行なっているがコロナ禍の為、書面にて行なっている  |      |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | コロナ禍の為、書面での開催としているがアンケートの返信をご家族などからいただきサービスの提供に活かしている                                      |      |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 運営推進会議や相談等を市の担当の方と連絡を取るよう心掛け協力関係を築けるよう取り組んでいる  |      |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 定期的に身体拘束についての勉強会を行ない職員全員で禁止行為を正しく理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる                                      |      |                   |
| 7                  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている       | 勉強会を行なったりすることで虐待についての理解を深め、見過ごされる事の無いように努めている  |      |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|----|-----|--|--|------|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 権利擁護に関する知識を勉強会で学び職員への周知に努め、本人や家族と話し合いを持ちながら支援を行なっている   |      |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 契約時に十分な説明時間を設け不安等に対して理解・納得を得られるように努めている                |      |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 玄関の分かり易い場所に意見箱を設置しご家族の意見・要望を募っている                      |      |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 定期的な面談で出た意見や、職員からの意見はリーダー会議等で話し合い、必要に応じて職員会議で伝えている。    |      |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 面談時にはその都度働き方の意向や今後の方向性についても話をして、職場環境の改善に努めている。         |      |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 本人の個性、能力に合わせた仕事量の配分や、今は外部研修に出られない分職員指導や施設内の勉強会を実施している。 |      |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍の為、交流する機会がなかったが、個々に同業者から聞いた情報などを参考に感染対策等行うことが出来た。  |      |                   |

| 自己                         | 外部  | 項目   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----------------------------|-----|--|---|------|-------------------|
|                            |     |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |   |      |                   |
| 15                         |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 要望・不安なこと等を本人から聞いたり、言動から探っている。家族からの情報を基に早期に信頼関係を築けるよう努めている。                                |      |                   |
| 16                         |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 家族等が困っていることや不安に思っていること、要望等を聞いたうえでサービス内容の説明を行い理解していただけるように努めている。                           |      |                   |
| 17                         |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | 職員一人一人が情報収集・共有することで必要な支援を見極め、必要に応じて歯科往診など外部サービスとの連携をはかっている。                               |      |                   |
| 18                         |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 「お互い様の心」の理念のもと、本人の出来る事を見極め活かすことで、頼りにするされる関係を築くことに努めている。                                   |      |                   |
| 19                         |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | コロナ禍でも関係性が切れてしまわない窓越しでの面会でソーシャルディスタンスを保つ努力やリモートでの面会も取り入れている                               |      |                   |
| 20                         | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | コロナ禍の為、会ったり行ったりする事は出来ないが、忘れてしまうことの無いように会話の中で話題としてあげるようにしている。                              |      |                   |
| 21                         |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 利用者同士の関係性を考慮した席の配置にする事で心地よく過ごせる環境を作り、関わり合いが持てるように努めている。又、トラブルになりそうな時は、職員が間に入り関係の修復を図っている。 |      |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|------------------------------------|------|--|--|------|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 利用が終了してからもご家族を町で見かけたら声を掛けさせてもらっている。退去した利用者の御家族の紹介で入居希望も受けることがある。     |      |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |      |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | その人らしい暮らしを継続する為に一人ひとりの思いや希望を聞き、何気ない言動からも汲み取るように努めている。                |      |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 本人からの思い出話やご家族から生活歴について詳しく聞き取りを行ない、これまでの生活の把握に努めている。                  |      |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | その日の心身の状態を把握し情報の共有をユニットスタッフで行ない、現状の把握に努めている。                         |      |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の現状を把握し情報の共有と共にカンファレンスを行ない、その時にあった介護計画を作成し必要時にはご家族の協力もいただいている。     |      |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個別に日常の記録(日々の様子、体調の変化、認知症の症状等)を残し、職員間で情報の共有ができるようにしケアの実践や介護計画に活かしている。 |      |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 個々のその時の状態に合わせた支援やその他のサービス利用が行えるように状況の把握と共有をしサービスの多機能化に取り組んでいる。       |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|------|---|---|------|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 地域の商店への買い物や散歩を行なうことで地域資源を活用してきたが、コロナ禍の為、地域資源の活用はできていない。   |      |                   |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 必要に応じてかかりつけ医や専門医の受診を受けている。ご家族と相談しながら、介助が必要な方もこちらで送迎のサポートをしている。  |      |                   |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 毎日看護師にきている為、ささいな事でも相談できる関係ができており、必要に応じた適切な受診や処置が受けられるよう支援している。  |      |                   |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者の入院時には、医療側へ迅速に情報提供を行なっている。<br>退院前に入院中の情報収集を行ない、退院後のサービス提供がスムーズに行えるよう努めている。                           |      |                   |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 入居する際に、ご家族より重度化した場合や終末期のあり方についての考えや思いを確認した上で施設としてできる事の説明をし方針を共有している。                                    |      |                   |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 急変・事故対応のマニュアルを作成し、定期的に職員に向けての勉強会を行ない周知することで急変や事故発生時に備えている。  |      |                   |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 火災時や水害時に合わせた避難訓練や非常食の炊き出し訓練を年間2回以上行う事で全職員が参加できるように配慮している。<br>運営推進会議などの場を利用してご家族や地域の方へ災害発生時の協力をお願いをしている。 |      |                   |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----------------------------------|------|--|---|------|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |   |      |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 個々の人格を尊重し、その方にあった言葉かけをしている。職員間でも定期的に言動についてはアンケートを行ったり、その都度指導している。                               |      |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 日常の言動の中から本人の思いや希望を汲み取りながら、過去の情報等は職員が共有し、自己決定できるよう支援に繋げている。                                      |      |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 個々のペースや本人の意向、夜間の睡眠状態など考慮しながら、活動と休息のバランスが取れるようサポートし職員の都合に合わせないように支援している。                         |      |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 毎朝の髭剃りや化粧ができるように環境づくりをしたり、好みの洋服を選ぶことができるように支援している。  |      |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 個々の能力に合わせて盛り付け、食材切り、味噌汁作りなど一緒に行ったり、時にはホットプレートを使用し調理を行なっている。配膳や食器洗いについても自立支援のもとサポートを行なっている。      |      |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 個々の状態に合わせた食事量や形態、使用する道具への配慮をして無理なく摂取できるよう支援している。<br>食事以外でも、おやつ時や入浴後などに水分を勧めることで1日の水分量の確保に努めている。 |      |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後に個々の状態に合わせて、歯ブラシやスポンジブラシ、口腔ケアシートを使い、清潔が保てるよう支援している。  |      |                   |



| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価 |                   |
|----|------|---|---|------|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄の状況チェック表を活用しながら、排泄間隔を把握し状態に合わせてトイレへの誘導をしたり、布パンツやリハビリパンツ、オムツの使用を検討し必要に応じて尿取りパットの使用をしている。<br>状況を把握することでリハビリパンツから布パン |      |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 運動や水分摂取を積極的に促すようにし整腸剤を内服されている方もいる。それでも自然排便が無い場合は、下剤や浣腸など医療と連携し便秘しないように努めている。  |      |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 本人の希望に合わせて入浴する順番や時間帯、間隔を配慮し誘うようにして、ゆっくり安心して入浴できるように支援している。  |      |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 個々のタイミングで休めるように声を掛けたり、寝具を清潔に保てるようにシーツ交換をしたり、エアコンなどで室温を調整するなど環境づくりを行なっている。   |      |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 医師や看護師の指示の元、処方箋を確認しながら薬の目的等について理解し、個々にしっかり内服ができているか確認を行うようにしている。体調や症状に変化があった場合は、看護師に相談しながら対応している。                   |      |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 一人ひとりに合った出来る事を探り、自信に繋がったり楽しめるように支援している。広告などを見て食べたい物を聞いて食事のメニューに反映したりと喜びのある生活になるように努めている。                            |      |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 本人の希望や桜など季節の花などが咲いている場所へ出掛けるなどしていたが、新型コロナウイルスの影響で敷地外への外出は控えている為、庭を活用し戸外を楽しめるように努めている。                               |      |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価 |                   |
|----|------|--|--|------|-------------------|
|    |      |  | 実践状況   | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 入居時には所持することへのリスクをご家族に伝え相談している。支払いの際は、財布から本人にお金を出してもらうなど個々の能力に合わせた支援を行なっている。                        |      |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 電話したいという希望がある時やご家族からの電話を取り次ぎ、話をされている。毎年、正月にはご家族への年賀状を出している。  |      |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節の飾りを一緒に作りフロアーに飾ったり、席が分かり易いように個々に応じた座布団を用意している。トイレや浴室など分かるように張り紙を張るなどして、それぞれが居心地よく過ごせるような工夫をしている。 |      |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | テーブル席だけではなく、ソファや和室、廊下の日当たりの良い場所にソファを置き、それぞれが思い思いに過ごせる場所、空間づくりに努めている。                               |      |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 自宅等で使い慣れた家具や好みの物を本人の状態に合わせ危険が少なくなるよう配置し、居心地よく過ごせるように努めている。   |      |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | トイレや浴室など馴染みのある分かり易い言葉の張り紙をしたり、本人が使いやすい掃除道具等を準備することで「できること」「わかること」を活かして、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。   |      |                   |